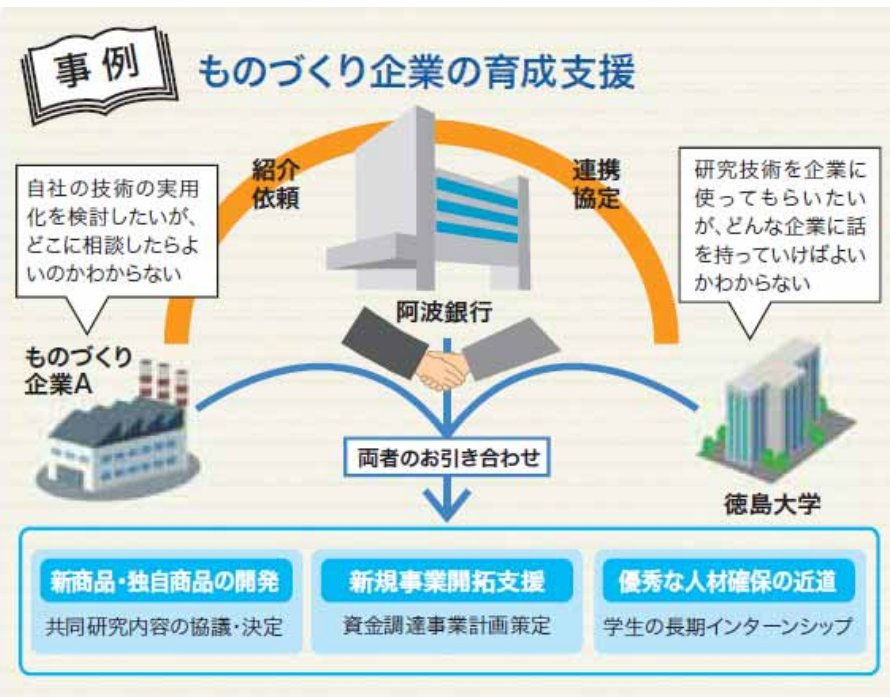


銀行名	阿波銀行
タイトル	地域社会エネルギーネットワーク事業にプロジェクトファイナンスを組成し支援しました
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設残土処分場を所有するA社は太陽光発電を検討していましたが、他の地権者との調整ができず計画に着手できませんでした。また、国立公園内で採石事業を営んでいたB社は採石場跡に義務付けられた緑化を実施できず苦慮していました。 ・両社は、幅広いネットワークを持つ防災専門家のC氏に相談しましたが、C氏がプロジェクトを進めた経験は豊富であるが自身の事業としては実績がないこと、事業規模が大きく複数の事業者が関係していることから、事業者間の調整が進みませんでした。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の隘路を解決するため、当行は、事業者間の調整を図りつつ、返済財源を本件事業収益のみとするプロジェクトファイナンスを単独で組成し、2メガワットのメガソーラー3ヶ所の建設資金をご融資しました。 ・保全策としてプロジェクト関連契約に係る債権やSPC株式に対して譲渡担保契約や質権設定等を行ったほか、太陽光発電設備および売電債権に対するABL等、プロジェクトが保有する資産に対して担保設定を行いました。 ・また、地域社会の参加型エネルギーネットワークを構築するため、市民参加型ファンドを組成することとなり、当行は市民出資者の募集をする地場証券会社を紹介しました。 ・当事業では売電収入による収益の一部を防災・緑化事業等の地域貢献事業として、事業開始3年後から支出することとしています。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出資企業、受託企業には県内企業が多数含まれ、発電事業による関係企業の売上等の増加と地域貢献支出による地元への収益還元が可能となる事業スキームを構築することができました。 ・当行においては、新規の資金需要に応えるとともに、PFI以外で初めてのプロジェクトファイナンス案件を実行することにより、ノウハウの蓄積を行うことができました。 ・売電収入の定期的なモニタリングにより、太陽光発電事業に対する目利き力の向上を図ることが可能になりました。

銀行名	阿波銀行
タイトル	AWA企業再生ファンドを活用し、企業再生支援に取り組んでいます
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は地域の総合集客施設を営んでおり、利用件数の減少により売上高が縮小傾向にありました。加えて実権者が病気で離脱したため、大幅に営業力が低下し、資金繰りが逼迫するなど実質破綻の状態に陥っていました。 ・ 再生支援のため、当行が組成した「AWA企業再生ファンド」を活用して、再生計画策定の可能性を探ることとなりました。 ・ スポンサーの参画により事業収益は大幅に改善を見せ始め、今後の収支見通しも一定の改善が見込まれることが明らかとなったため、スポンサーによる資金拠出と金融債務の実質カットを盛り込んだ再生計画が中小企業再生支援協議会にて検証され、各金融機関の合意に至りました。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行はメイン行として再生支援を主導し、外部コンサルタント・中小企業再生支援協議会等と協力して再生計画を策定しました。 ・ 当行・政府系金融機関等が実質債権放棄を行い、スポンサーの資金により設立した新会社が当社資産を分割して承継しました。新会社に対しては、当行がリファイナンスを供与し、適性負債の状態でのスタートを支援しました。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は地域で最大規模の収容人数を誇る施設を運営しており、一定の知名度も有しています。本再生計画によりA社のブランドは維持され、破綻を回避するとともに、従業員の雇用も確保されました。 ・ 新スポンサーの参画により、社内の風通しが良くなり、支配人はじめ従業員が丸となって再生に取り組んでいます。 <div data-bbox="651 1312 1281 1496" style="text-align: center;"> <p>当行がメイン行として再生支援を主導 → 支援要請 → 再生支援協議会・外部コンサルタント</p> <p>連携して再生を支援</p> </div> <div data-bbox="443 1507 1469 2007" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>再生スキーム図</p> <p>旧会社 (利用件数の減少, 後継者不在, 過剰負債) → 会社分割 → 新会社 (適正負債, 施設存続, 従業員承継)</p> <p>阿波銀行 → 債権譲渡 → AWA企業再生ファンド → 債権放棄 → 旧会社</p> <p>阿波銀行 → リファイナンス → 新会社</p> <p>スポンサー → 出資・貸付 → 新会社</p> <p>新会社 → 返済 → 阿波銀行</p> </div>

銀行名	阿波銀行
タイトル	徳島大学と連携し、地元企業の研究開発を支援しています
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 徳島大学は、理系分野で高い技術力を持っており、地元企業との連携方法を模索していました。一方で、当行は、お客さまに対する技術面での支援ノウハウを蓄積したいと考えていました。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年2月、徳島大学と「連携協力に関する協定書」に調印し、ものづくり企業に対する支援の態勢を整えました。 取引先企業からニーズが出てくるのを待つ姿勢では支援対象が広がらないため、平成25年11月からは産学官連携推進部の教授と当行担当者が帯同し、技術系の企業を集中的に訪問しています。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度下期中に28社の企業を訪問し、6社について徳島大学との連携に向けた動きが進行中です。うち5社については、研究開発に関する補助金を申請し、既に3社が採択され、手続を進めています。 当行は今後も、地元の企業と徳島大学の連携を仲介し、地元企業の技術開発を支援していきます。  <p>事例 ものづくり企業の育成支援</p> <p>自社の技術の実用化を検討したいが、どこに相談したらよいかわからない</p> <p>紹介 依頼</p> <p>阿波銀行</p> <p>連携 協定</p> <p>研究技術を企業に使ってもらいたいが、どんな企業に話を持っていけばよいかわからない</p> <p>ものづくり企業A</p> <p>徳島大学</p> <p>両者のお引き合わせ</p> <p>新商品・独自商品の開発 共同研究内容の協議・決定</p> <p>新規事業開拓支援 資金調達事業計画策定</p> <p>優秀な人材確保の近道 学生の長期インターンシップ</p>

銀行名	阿波銀行
タイトル	6次産業化を支援するため「あわぎんアグリファンド」を組成しました
取組み内容	<p>平成25年11月、農林漁業者が加工・販売までを手掛ける6次産業化を支援する取組みとして、株式会社農林漁業成長産業化支援機構との共同出資による総額10億円の「あわぎんアグリファンド」を組成しました。</p> <p>地元徳島をはじめ関西・関東地区にも営業拠点を持つあわぎんグループのネットワークを活用して、ビジネスマッチング等を実施することにより、6次産業化事業への取組みをサポートしていきます。</p>

銀行名	阿波銀行
タイトル	欧風産直市「とくしまマルシェ」に協力しています
取組み内容	<p>「とくしまマルシェ」は、徳島市中心部の新町川沿いで毎月1回開催されている欧風産直市です。農業ビジネス、観光、中心市街地の活性化の効果を狙い、当行の全額出資により設立されたシンクタンク公益財団法人徳島経済研究所の提案により実現したものです。当行は、出店者の選定に際し、特徴ある農業生産者の情報提供等を行っています。</p> <p>こだわりの農産物とヨーロッパの朝市のようなお洒落な雰囲気の特徴に、マルシェの開催規模は順調に拡大しています。平成25年度から常設店が開設されることとなり、当行は、マルシェの運営会社に対し、総務省の「地域経済循環創造事業交付金」の申請支援やご融資等、資金調達に関するサポートを行いました。</p> <div data-bbox="451 857 1469 1189"> </div>

銀行名	阿波銀行
タイトル	青少年の金融教育に取り組んでいます
取組み内容	<p>金融について学び、正しい金銭感覚を身につけてもらうため、徳島県内の小学校で当行職員が教壇に立つ、「あわぎん子ども金融教室」を平成18年から開催しています。</p> <p>また、県内の小中学校で、銀行の役割やビジネスマナーに関する出前授業を随時開催しているほか、徳島大学の「起業力養成講座」へも当行職員を講師として派遣しています。</p> <p>さらに、毎年夏休みには「夏休み親子ふれあい金融機関見学会」を継続的に実施し、金融や銀行について楽しく学べる機会を提供しています。</p> 